

第4回長野市総合計画審議会作業部会 教育部会 会議録（概要）

日 時：平成17年11月28日（月）

午後1時30分から

場 所：第二庁舎10階 講堂

< 1 次世代を担う人材の育成と環境の整備について >

- 作業部会員 ・1点目について、10年後を見据えると、今の課題としては少子化ということが大きい。子供達の個性や感性もいいが、子供達が人と関わる力などのニュアンスの表現がほしい。
- 作業部会員 ・できたら言葉としてここ（たたき台）に載ってくるものがほしいと思う。それぞれ思っていることを出していったらよかったらよいと思う。
- 作業部会員 ・個性や感性というのは昔から言われていることであり、現在の教育の課題であることは事実だが、これからのことを考えると「コミュニティ能力」というような表現が入った方がよいのではないかと思う。
- 作業部会員 ・10年後を見据えたときに、「人と関わる力」というものを大きなものとして挙げてきて良いのではないかという意見である。
- 作業部会員 ・「個性、心の優しさと豊かな感性」というのは第三次と重なる部分である。もちろんこのことも大切だが、ワークショップのまとめをみると、コミュニティ能力を含め、「命の大事さ」だとか「たくましい人間」、「生きる力」というキーワードが出ているので、例えば「心の優しさと豊かな感性を持った生きる力を育む多様な教育の展開」など、もう少し強いものを持っていかないとこれからの時代に対応できないのではないかと思い、反映できないかと考えた。
- 作業部会員 ・人と関わるというのが、「心の優しさと生きる力を育む多様な教育」といったような形で言葉が出てきているがいかがか。
- 専門部会員 ・事務局の言葉を見るとちょっとやさしすぎるかとも思う。部会員さんがおっしゃったように、10年後を背負って立ってもらおう子どもということが強いので、もう少し強い「元気な子ども」というようなイメージのある表現がほしいかと思う。「コミュニケーション能力」や「関わり」ということも必要かとも思う。あれもこれというわけにもいかないかとも思うが、力強さ、明るさがあった方がよいと思う。
- 作業部会員 ・1点目については、大変大きなことを含んでいるので、文章が長くなることも考えられるが、例えば2つに分けることはできるのか。
- 事務局 ・分けることはできる。
- 作業部会員 ・タイトルの「次世代を担う人材」とはどのような人材をイメージしているのか？これからの変化を見越した人材を考えるのか。それとも、現段階の問題・課題を見据えた人材なのか。読み手としてはなかなか

読みとれない。どのような人材をイメージすればよいか分かれれば、自ずと方向性や要素の部分も展開されてくるのではないか。そうすると、どのような環境で育てればいいのか。ということが必然的に結びついてくる。このことは、以下2、3、4の各分野においても言えるのではないか。

- 作業部会員 ・「次世代を担う人材」については、どのような人材をイメージして作成したのか。
- 事務局 ・ワークショップの将来像・将来展望のところに出ている「生き生きとした」「豊かな感性」「社会性」「たくましい人間」などといった言葉をイメージして作成したが、イメージしにくい部分はあるかもしれない。
- 作業部会員 ・「関わり」といった問題や「自分の感性を磨いていく」という磨き方についても、人材の中に含まれるのであれば、「関わり」や「子供達が互いに鍛え合っていく」ということを方向性の中に入れていく必要があると思う。今まで触れてこなかったことなので、第四次の計画で新たに取り入れていく点となる。
- 作業部会員 ・「・・・多様な教育の展開」と結びついていいのか。「・・・を育む」の後にもう一つクッションが必要なのではないかと思う。
- 作業部会員 ・キーワードとしては、「関わり」「人と し合う」ということが出ている。
- 作業部会員 ・「次世代を担う人材」として何が必要かと考えたときに、「個性」「感性」「人間関係力」があると思うが、もう1点、ニートの問題もあるので、意欲ある子どもというような表現も必要か。キーワードとしては、「意欲」「感性」「生きる力」という言葉が入ってきていいのではないかと思う。
- 作業部会員 ・今、教育現場でも問題となっているのは、人と人との関係を作っていく力が弱くなっているということがある。
- 作業部会員 ・第三次の計画のように、これから肉付けされて文章化されるのではなく、現在示されているような形でいくのであれば、もう1つ項目を増やしてもいいのかとも思う。
- 事務局 ・第4、5回では、ワークショップの結果を受けて作成した骨子の議論を行い、今後、もう少し肉付けをしたもので更に議論いただく予定。
- 専門部会員 ・ワークショップでも、今日話に出てきた言葉がいくつかあって、「生きる力」「創造力」「コミュニケーション力」「生き生きとした」「豊かな感性」。人間関係でいうと「社会性」といった言葉が出ていて、1枚目ではこの辺りがポイントになるのではないか。Bグループでも「コミュニケーション能力」というAグループと共通する言葉がある。他には「たくましい」「個性」「やさしさ」「思いやり」などといった、

これからの子供達に我々が求めていきたいキーワードとなるような言葉がある。ワークショップの中で出ている表現をもう少し使っていたらよいと思う。

- 作業部会員
- ・例えば、ワークショップのグループAの内容を見ると、今の青少年に欠落していて、今後どのように育てていったらよいかという要素として、表現のこと、原体験、お互いに関わり合っただけモノを創り出していく喜びの3点がある。これらが総合したときに、「生きる力」というのが具体的に見えてくるのではないかと思う。
 - ・ワークショップの関係性をもう少し見ながら、それをくみ取って要素の中に入れてみると、ワークショップで出た意見がより意味を為すと思う。
- 作業部会員
- ・方向性の中では「生きる力」として表現していき、要素の中では「関わり合い」そのことによる「喜び」といったことを入れていくという意見があった。
- 作業部会員
- ・全てを方向性に載せると焦点がボケてしまうので、「生きる力」や「個性」などキーワードになる言葉を入れ、要素の中に、今まで出たような意見を入れていくことが必要ではないか。
- 専門部会員
- ・「生きる力」か何か1つ足りないかとは思いますが、方向性のある程度示していただいた中で、大項目として考え、個々の文言については基本計画の要素ということで今後盛り込んでいくということで考えてもらえればと思う。
- 作業部会員
- ・「生きる力」は漠然としている。それを支える具体的なものは、要素として今後みんな考えていきたい。

< 2 豊かな生涯学習社会の形成 >

- 作業部会員
- ・「生涯学習指導者の育成と活動体制の整備」というのはどういうことか。
- 専門部会員
- ・生涯学習もスポーツもそうだが、現在、リーダーバンクという制度があるが、活発に活動されているところと制度が生かされていないところがあり、今後充実していく必要がある。
 - 平成18年秋に生涯学習センターがオープンするので、センターや公民館の活動を通して充実させていきたいと考えている。
- 作業部会員
- ・市内各課で養成講座を含め、活躍の場は設けられつつある状況である。
 - ・現状としては、(特にハード面に関しては)生涯学習の場や機会は充実している。しかし、活用している人が特定されているのが問題である。
 - ・昔は、井戸端会議が生涯学習の場であり、子育てや嫁姑関係などを学んでいた。今は、1人であることに気楽さを感じる傾向があるが、1人で楽しむ生涯学習ということで果たして良いのか。

- ・育児に悩む母親には、人付き合いがうまくいかない人が多い。人付き合いが煩わしいという方の中に子育てがうまくいかない母親が多い。自立した街になっていくには、個々の生涯学習ではうまくいかない。ふれあいに満ちた生涯学習が今後求められてくると思う。
 - ・生涯学習の場や機会をいかに活用していくかということが問題。この骨子の中に入れる必要はないと思うが、今後、計画策定していく中で入れてほしい。
- 作業部会員
- ・「生涯学習」というと、カルチャーセンター的なものをイメージするが、みんなが学んでいるのがにじみ出てくるような社会を理想としたい。「生涯学習の学びの成果」というとカルチャーセンター的なイメージ。そこで学んで何か技術を持った人が何かしないといけないというイメージが強すぎる。ちょっと勉強してみようというやさしいイメージを期待したい。
 - ・10年後を考えると団塊の世代の人が高齢者になるので、その人達の技術をうまく生かせる社会をイメージしたい。
- 作業部会員
- ・方向性の1点目については、「学ぶことができる環境づくり」というところを「学び合う喜びが感じられる環境づくり」としたらどうか。
- 専門部会員
- ・要素の部分は今後も変更の余地があるのか。要素としてもう少しキーワードが増えてもいいのかと思う。
- 事務局
- ・基本計画を作成していく上での要素であるので、今後、計画を策定していく過程で追加した方がよいキーワードはまだ出てくると思う。
 - ・基本計画を議論する中で、もう一度基本構想に立ち返って修正していくということもあるかと思う。
- 作業部会員
- ・(基本構想という性格上、)方向性の部分は、読み手が色々と想像できる文言である必要があるとすると、書いてある内容でいいのではないかと思う。
 - ・2点目の「学びの成果の活用」はカタイ。「生涯学習の学びの喜びをもとにした」などの表現がよいのでは。
- 作業部会員
- ・タイトルの「生涯学習社会」という表現からは、カルチャースクールが沢山ある社会というイメージがする。「誰もが学べる姿勢がある社会」というイメージの表現にしたらどうかと思う。

< 3 潤いと感動を伝える多彩な文化の創造と継承 >

- 作業部会員
- ・タイトルは、第三次と比較すると、「多彩な」という言葉が入っただけであるが、この言葉は重要なキーワードであると考えて。前段の「潤いと感動を伝える」という部分に関して、今後皆さんと一緒に考えて変更していきたい。
 - ・方向性については、1点目の「市民の文化芸術活動の促進と文化的風

土の醸成」が入ったことが第四次としての新たな視点ではないかと思う。

- ・「伝えること」と「創ること」のバランスがまちづくりの両輪となると考えているので、この内容でよいと思う。

< 4 躍動する市民スポーツの振興と競技力の向上 >

- 作業部会員 ・方向性としてはこのような表現になってしまうと思うが、要素の1点目には、『だれもが気軽に「やりたい」とか「好きな」スポーツ・レクリエーションに親しめる機会の充実』といったように、少し追加した方がよいのではと思う。
- 作業部会員 ・健常者を前提としているように感じる。障害者の関係の言葉を入れた方がよいのでは。障害者の話については、教育の分野だけではないと思うがどこかに入れた方がよいかと思う。
- 作業部会員 ・「ともに歩む」というような文言として表現すればよいか。全体にかかる話なので、まちづくりの方向性の中に入れてもよいかと思う。

< まちづくりの方向性 >

- 作業部会員 ・障害者の方も含めて「ともに生きる」というような話も出たのでそのことも含めてご意見をいただきたい。
- 作業部会員 ・文化が生涯学習に含まれてしまうのは質が違うと思う。施策の視点の中に「市民文化の創造のための環境の整備」「市民の文化活動のための環境の整備」といった表現を入れてほしい。
- 事務局 ・施策の視点は、4章の分野全てに共通するものを挙げている。「文化」という文言を入れた場合、他の項目に当てはめるのは難しいかと思う。
- 作業部会員 ・「学ぶ」と「創る」は全く別である。今、長野市に欠けているのは「創る」ということ。
・視点の1点目に、「ともに学ぶ」ということと「文化芸術」を並列に入れたらどうかと思う。
・今までの長野市の計画の中では、文化は生涯学習か教育の中に取り込まれてしまっていた。第四次では全く別のものとして区別ほしい。
- 作業部会員 ・大きなタイトルの中に「多彩な文化」と入っている。視点の1つ目に「・・・学ぶことができる多彩な文化環境の整備」とするとか。学校教育も含めて大きな文化と捉えてよいものなのか。
- 作業部会員 ・いいのではないか。
- 作業部会員 ・地域の文化的土壌がしっかりあって、そこに子供達が育つと考えたらよいか。
- 作業部会員 ・「地域コミュニティの希薄化が進行する中において、・・・」という文章の流れはおかしい。マイナスの表現から来るのではなく、「コミュ

作業部会員

- ニティを醸成しながら・・・」などのプラスの表現にした方がよい。
- ・市が向かおうとしている表現がないといけない。
 - ・施策の視点の1点目、「生涯にわたって学ぶ」では、息切れしないか。抵抗がある。「いつでもどこでもだれとでも学び創造することができる環境の整備」という表現にしたらどうか。
 - ・3点目の「地域と連携した教育」では、何か不足している文言があるのではないか。

以上